東京都立多摩科学技術高等学校

令和 5 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 言語文化

教　科：国語　科　目：言語文化　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

使用教科書：	教科書：言語文化（数研出版） 副教材：三訂版古文単語330（いいずな書店）、改訂三版完全マスター古典文法（第一学習社）、新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め（第一学習社）、精説漢文改訂版（いいずな書店）、新版七訂総合国語便覧（第一学習社）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　言語文化　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科学技術に携わる者として豊かな感性を育み、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりしる力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、未来の科学者・技術者として自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	単　元 1　古典入門	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○	○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に親しみ、古典特有のきまりや表現などを理解することができる。	古文の基礎、古典文法（動詞）、人物の行動・心情の理解				古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などのついて理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	教科書等				文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	言葉が持つ価値への認識を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第１学期中間考査）/返却と解説									2
	単　元 2　古文（歌物語）、漢文入門	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○	○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり・古典特有の表現などを理解ができる。	古典文法（形容詞）、漢文（返り点・再読文字）				古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などのついて理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解することができる。	教科書等				文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	言葉が持つ価値への認識を深め、読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単　元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第１学期期末考査）/返却と解説									2

東京都立多摩科学技術高等学校

令和 5 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 言語文化

教　科：国語　科　目：言語文化　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

使用教科書：	教科書：言語文化（数研出版） 副教材：三訂版古文単語330（いいずな書店）、改訂三版完全マスター古典文法（第一学習社）、新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め（第一学習社）、精説漢文改訂版（いいずな書店）、新版七訂総合国語便覧（第一学習社）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　言語文化　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科学技術に携わる者として豊かな感性を育み、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりしる力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、未来の科学者・技術者として自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
2学期	単元 3 古文（伊勢物語）、近代小説（羅生門）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○	○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり・古典特有の表現などを理解ができる。	古典文法（助動詞）、人物の心情・行動の理解				古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などのついて理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。	教科書等				文章の構成や展開、表現の特色について評価している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	言葉が持つ価値への認識を深め、読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第２学期中間考査）/返却と解説									2
	単元 4 古文（土佐日記）、漢文（史伝）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○	○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり・古典特有の表現などを理解ができる。	古典文法（助動詞）、漢文句法、人物の行動・心情の理解				古典世界に親しむために、必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などのついて理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解することができる。	教科書等				作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	言葉が持つ価値への認識を深め、読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第２学期期末考査）/返却と解説									2

令和 5 年度　年間授業計画　教科 国語　科目 言語文化

教　科：国語　科　目：言語文化　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

使用教科書：	教科書：言語文化（数研出版） 副教材：三訂版古文単語330（いいずな書店）、改訂三版完全マスター古典文法（第一学習社）、新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め（第一学習社）、精説漢文改訂版（いいずな書店）、新版七訂総合国語便覧（第一学習社）

教科　国語　の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
【思考力、判断力、表現力等】	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者のとの関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目　言語文化　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
科学技術に携わる者として豊かな感性を育み、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりしる力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、未来の科学者・技術者として自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとするとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
3学期	単元 5 古文（竹取物語）、漢文（漢詩）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○	○	○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	12
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	古典に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。	古典文法（敬語）、漢詩のきまり、本文の内容理解				我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方や考え方を深め、言語文化について意見を持つことができる。	教科書等				作品の内容や解釈を踏まえ、ものの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えを持つことができる。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	言葉が持つ価値への認識を深め、読書に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする。	意見の発表や交換等				上記の内容について、授業中の発言や課題の完成度などのおいて主体的かつ積極的に取り組んでいる。				
	単元	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項				【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材				【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人１台端末の活用（場面）				【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説									2